

汚染水対策スケジュール (1/2)

資料1-1

分野	活り	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月以降	備考		
				12	19	26	2	9	16	23	30	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
●原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減(2022~2024年度)	建屋内滞留水	【1~4号機 滞留水移送装置】 (実績) ・1~4号機滞留水移送装置運転 (予定) ・1~4号機滞留水移送装置運転	1~4号機滞留水移送装置設置 運転																					(継続運転)	2号機 原子炉建屋滞留水水位低下(T.P.-2800目録) 実施中 (2021/10/12~) 【1/27時点水位 約T.P.-2500】 ※監視パラメータ異常なし 建屋滞留水より回収した浮上油の油処理装置 運転確認開始予定 (2022/1末目標)			
		【α核種除去設備検討】	設計・検討																						(2023年度上期 工事完了予定)			
		【1~4号機 T/B床面スラッジ等の回収方法検討】	設計・検討																							(2023年度 設計完了予定)		
		【滞留水処理 代替タンク設計】	設計・検討																							(2023年度下期 工事完了予定)		
		【プロセス主建屋・高温炉建屋セオライト土質の検討】	設計・検討																							(2023年度上期 設計完了予定)	プロセス主建屋の地下階線量調査実施 (2021/10~)	
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	浄化設備	【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	処理運転(処理水の状態に応じて適宜運転または処理停止)																						(継続運転)	処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止 既設多核種除去設備 除去性能確認に係る実施計画変更 (2021/11/5認可) 高性能多核種除去設備 前処理設備改造に係る実施計画変更申請 (2021/7/27)		
		【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	処理運転																							(継続運転)	サブドレン汲み上げ、運用開始 (2015.9.3~) 排水開始 (2015.9.14~)	
		【5、6号機サブドレンの復旧】 (実績) サブドレン設備復旧工事着手 (2020/9/7~) ・配管設置: 約1900m ・中継タンク設置: 2/2基 ・ポンプ・水位計設置: 13/13箇所 ・試験(各設備設置後) : 一貫式 (2022/1実施中)	試験により地下水を1~4号機集水タンクに移送する予定 (2022年3月 運転開始予定) (1月下旬~2月上旬)																									2021年2月18日 5・6号機サブドレン集水設備復旧の実施計画変更認可 (原規規第2102184号)
		【地下水バイパス設備】 (実績) ・運転 (予定) ・運転	運転																								(継続運転)	
		【セシウム吸着装置】 【第二セシウム吸着装置】 【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	処理運転																								(継続運転)	2021年1月29日 吸着装置の第二セシウム吸着装置及び第三セシウム吸着装置での再利用の実施計画変更認可 (原規規第2101291号) サイトハンカ建屋天井クレーン不具合事象に伴い、使用前検査工程検討中。
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	陸側運水壁	(実績・予定) ・凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 (予定) ・維持管理運転2019年2月21日全区域開始完了	維持管理運転(北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)																						(継続運転)			
		【凍土壁内フェーシング(全6万m ²)】 (予定) 4号機タービン建屋東側	4号機タービン建屋東側																							(2022年2月 工事完了予定)	4号機タービン建屋東側: 2021年4月7日開始	
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	3号機R/B燃料取出力カバー 雨水対策 (HPCI水位上昇対応)	(実績) ・2021年8月6日 仮設雨樋設置完了 (予定) ・2022年2月 雨樋本設完了予定	雨水排水先変更(サブドレンNo.34付近の地表面に排水)																						(2022年2月 工事完了予定)	3号機R/B他雨樋設置工事その2 計画中		

汚染水対策スケジュール (2/2)

分野	活	計画/中長期実行プラン2021目標工程	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	12月							1月							2月							3月							4月							5月							6月							7月以降	備考																										
					12月							1月							2月							3月							4月							5月							6月																																		
					12	13	14	15	16	17	18	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30								
汚染水対策分野	●タンク関連	H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	現場作業 モニタリング	(継続実施)																																																																								備考 2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について(実施計画変更認可) ※: 残水回収中の2基を除く				
					タンク解体	(実績・予定) ・Eエリアフランジタンク解体工事: 49基解体予定 (実績) 解体基数 46基/49基	現場作業 Eエリアフランジタンク解体工事	(2022年4月工事完了予定)*																																																																								2021年11月5日 中低濃度タンク(G4北、G5エリア)の設置等の実施計画変更認可(原規模第2111054号) ※: 工程前倒しを検討中	
					タンク設置	(実績・予定) ・G4北エリア溶接タンク設置工事: 6基設置予定 (実績) 設置基数 4基/6基 ・G5エリア溶接タンク設置工事: 17基設置予定 (実績) 設置基数 4基/17基	現場作業 G4北エリア溶接タンク設置工事 G5エリア溶接タンク設置工事	(2022年8月工事完了予定) (2022年8月工事完了予定)																																																																								※: 工程前倒しを検討中	
	●溜まり水対策	溜まり水対策	【構内溜まり水の除去】	現場作業	(継続実施)																																																																								年1回、溜まり水の点検を実施				
	●自然災害対策	津波対策	○日本海津波対策 ・日本海津波対策防制壁設置(実績・予定) 試験施工 本体構築工事	現場作業	現場調査・測量・試験施工・本体構築工事	(2024年3月工事完了予定)																																																																								1-4号機側: 2024年3月完了予定 現場着手: 2021/06/21開始 テールアルメ工事: 2021年9月14日作業開始 アッシュクリート打設: 2021年10月15日作業開始			
				○O3.11津波対策 ・建屋開口部閉止(実績) 閉止箇所数 127箇所/127箇所	現場作業	【区分②】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B壁等	(2022年1月127箇所完了)																																																																								【区分①②】1~3T/B等2019年3月、全67箇所完了 【区分③】2, 3R/B外部のハッチ等(2019年3月~2020年3月、全20箇所完了) 【区分④】1~3R/B等(2019年9月~2020年11月、全16箇所完了) 【区分⑤】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B(2020年3月~2022年1月、全24箇所完了)		
				○O3.11津波対策 ・メガフロート移設【1/19時点】(実績) 番倉マウンド造成100%、ハラスト水処理100% 内部除染作業: 100% メガフロート移設・仮番倉: 100% 内部充填作業: 100% 運搬ブロック製造: 100% 据付: 100% 裏込工: 100% ブロック基礎被覆: 100% 上部盛土工: 100% 上部コンクリート工: 100% 港湾ヤード整備: 65%	現場作業	運搬工事	(2022年2月工事完了予定)																																																																								番倉マウンド造成: 2019年5月20日開始、2020年2月7日完了 ハラスト水処理: 2019年5月28日開始、2020年2月20日完了 内部除染: 2019年7月16日開始、2020年2月26日完了 メガフロート移設・仮番倉: 2020年3月4日完了 内部充填: 2020年4月3日開始、8月3日完了 運搬ブロック据付: 2020年10月2日開始、2021年2月4日完了 裏込工: 2021年1月16日開始、2021年3月24日完了 ブロック基礎被覆: 2021年3月25日開始、2021年6月8日完了 上部盛土工: 2021年4月19日開始、2021年8月3日完了 上部コンクリート工: 2021年6月16日開始、2021年11月22日完了 港湾ヤード整備: 2021年10月18日開始、2022年2月25日完了 完了目標後2月13日の地震による影響を福島県と協議し、追加申請を実施予定。		
	豪雨対策	豪雨対策	○豪雨対策 ・D排水路新設(実績) (1/19時点) 準備工事 完了 立坑構築工(専務連立坑部) 75% 立坑構築工(上流側連立坑部) 80% 立坑構築工(下流側連立坑部) 60% 立坑構築工(小口径推進部) 40% トンネル工(下流側機械推進工) 98% 推進管据付(下流側) 279/284本(約98%) (約330m/約690m)	現場作業	立坑構築工事(専務連立坑部、下流側連立坑部、上流側連立坑部、小口径推進部) トンネル工事(下流側~2022.1) トンネル工事(上流側~2022.4)	(2022年8月工事完了予定) (2022年4月機械推進工事完了予定)																																																																								準備工事(専務連立坑部) : 2021年2月25日開始 専務連立坑部: 2021/03/06施工開始 下流側連立坑部: 2021/03/22準備開始、7月16日施工開始 上流側連立坑部: 2021/04/05施工開始 トンネル工事: 2021/07/29開始、2021/09/06推進作業開始、2021/09/16初期掘進開始、2021/09/28本掘進開始 2022/01/28に下流側掘進完了 2022/03に上流側掘進開始予定			

水処理設備の運転状況, 運転計画
(2022年1月21日~2022年2月17日)

2022年2月4日
東京電力ホールディングス株式会社

既設多核種除去設備

	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)	4(金)	5(土)	6(日)	7(月)	8(火)	9(水)	10(木)	11(金)	12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)	17(木)
A	点検停止																											
B	点検停止																											
C	点検停止																											

増設多核種除去設備

	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)	4(金)	5(土)	6(日)	7(月)	8(火)	9(水)	10(木)	11(金)	12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)	17(木)	
A	点検停止														計画停止														
B	点検停止																												
C	計画	点検停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止	計画停止								

高性能多核種除去設備

	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)	4(金)	5(土)	6(日)	7(月)	8(火)	9(水)	10(木)	11(金)	12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)	17(木)
A	計画停止							点検停止							計画停止							計画停止						

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)	4(金)	5(土)	6(日)	7(月)	8(火)	9(水)	10(木)	11(金)	12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)	17(木)
SARRY	計画				計画停止				計画停止				計画停止				計画停止				計画							
SARRY2	計画停止																											
KURION	計画停止 (滞留水の状況に応じて運転を計画, 実施)																											

※ 現場状況を踏まえて運転するため, 計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について
(2022年1月21日～2022年2月3日)

2022年2月4日
東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位				タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位			
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス 主建屋	高温焼却炉 建屋	サイトバンカ 建屋
			HPCI室	トールラス室												
1月21日	-2031	-2602	-2047	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-632	-263	2701
1月22日	-2051	-2593	-2047	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-717	-264	2701
1月23日	-2036	-2585	-2049	-2040	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-806	-264	2701
1月24日	-2052	-2588	-2049	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-886	-264	2701
1月25日	-2041	-2628	-2050	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-856	-263	2701
1月26日	-2037	-2618	-2049	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-836	-140	2701
1月27日	-2051	-2628	-2049	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-922	62	2701
1月28日	-2047	-2618	-2049	-2017	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1055	210	2701
1月29日	-2036	-2607	-2049	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1106	366	2701
1月30日	-2054	-2595	-2050	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1104	526	2700
1月31日	-2041	-2581	-2050	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1102	679	2701
2月1日	-2032	-2627	-2050	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1097	623	2701
2月2日	-2047	-2618	-2050	-2041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1093	381	2701
2月3日	-2035	-2607	-2049	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1092	126	2701
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796	-4796	-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	-

備考欄

- ※ T.P.表記 (単位:mm)
- ※ 5時時点の水位
- ※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了(2017年3月)
- ※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2019年3月)
- ※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)
- ※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2～4号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2～4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ サイトバンカ建屋は過去に滞留水を誤って移送したことがあり、排水したものの現状も低レベルの汚染が残っていることから、水位を監視している。
なお、当該建屋内の水は1～4号機建屋及び集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋)内の建屋滞留水と切り離されており、放射能濃度も低いことから、建屋滞留水ではない。

各エリア別タンク一覧

1～4号機用汚染水貯蔵タンク

タンク基数、水位、貯蔵量、実容量集約日 2022年1月20日

エリア	基数	1基あたり容量(公称)(m ³)	タンク型	貯蔵水	H水位(mm)	H容量/基=実容量/基(m ³)	0%以下貯蔵量(m ³)	0%以上貯蔵量(m ³)	実容量(m ³)	水位管理				放射能濃度(Bq/cc)							測定時期	概略使用開始時期
										水位(%) (最大値)	スロッシング考慮(%)	HANN(%)	HHANN(%)	Cs-134	Cs-137	Co-60	Mn-54	Sb-125	Ru-106	Sr-90		
B	10	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13674	1297	約20	12862	12975	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.12	
	27	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13272	682	約30	17716	18413	96.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.10	
B南	7	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13674	1297	約10	9082	9082	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.10	
C	26	40	鋼製角型タンク(溶接)	濃縮塩水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H30.10)							H23.6	
	52	40	鋼製角型タンク(溶接)	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							H23.8	
D	19	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	12936	1004	約210	8843	19078	29.1	95	88.7	90	1.4E+00	5.4E+00	8.2E-02	<1.9E-02	3.1E+00	<3.5E-01	4.4E+01	H27.3	H26.8
	12	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	RO処理水(淡水)	12936	1004	約140	8544	12049	88.3	95	88.7	90	タンクの分析は未実施							R1.11	
E	26	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(A)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中							—	
	2	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	濃縮塩水	9880	1054	100 ^{※5}	—	2109	1.3	95	96.3	98.9	2.7E+00	8.6E+00	3.0E+00	1.4E+00	3.7E+01	1.3E+01	3.8E+04	H27.2	H24.8
G1	7	100	鋼製横置きタンク(溶接)※土中埋設	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H31.2)							—	
	66	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約160	87086	87244	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							R1.11	
G1南	8	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	11920	1130	約20	8986	9042	97.0	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.4	
	15	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	13664	1296	約30	19317	19442	97.0	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.4	
G3東	24	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	9400	1069	約50	25337	25652	96.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H25.4	
G3西	39	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設) ※1, 2	9400	1012	約40	14451	39466	91.5	100	92.5	93.8	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H25.10	
G3北	6	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設) ※2	9400	1069	約10	6367	6413	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							R2.3	
G4南	26	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約60	34312	34369	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							R2.3	
G6	38	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13674	1297	約70	48937	49303	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H31.4	
G7	10	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	13415	690	約10	6651	6898	94.2	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.12	
H1	63	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	10539	1190	約140	74192	74969	96.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H27.3	
H1東	24	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10539	1190	約50	28539	28560	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.4	
H2	44	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	11330	2331	約180	101240	102569	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.10	
H3	10	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	10796	1322	約20	13192	13219	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.11	
H4北	35	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10366	1169	約80	40609	40931	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H29.7	
H4南	13	1060	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13190	1034	約20	13410	13424	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H29.12	
	38	1140	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13010	1112	約70	41961	42249	97.5	100	97.7	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.4	
H5	32	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	10368	1169	約70	37059	37423	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.9	
H6(I)	11	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10368	1169	約20	12852	12864	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.8	
H6(II)	24	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約60	31561	31725	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.12	
H8北	5	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	9477	1069	約10	2352	5344	43.0	100	97.7	99	1.3E-01	5.7E-01	2.7E-01	3.6E-02	6.4E+00	—	2.2E+02	H27.3	H25.4
H8南	8	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水 ※2	9477	1069	約0	0	8551	0.0	100	97.7	99	タンクの分析は未実施							現在未使用中	
	3	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	9477	1069	約10	228	3207	20.8	100	97.7	99	<5.1E-02	1.2E-01	2.1E-01	2.0E-02	3.8E+00	2.9E-01	9.1E+01	H27.3	H25.4
J1	98	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設) ※1, 2	9477	1069	約200	94575	104746	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.1	
	2	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水 (高性能検証試験装置)	9477	1069	約0	1044	2138	95.4	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}								
J2	42	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	12151	2500	約170	103430	104999	96.0	99	97.2	98.5	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.9	
J3	22	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	12101	2490	約90	54207	54773	96.1	99	96.8	98.1	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.10	
J4	30	2900	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	12604	2829	約130	84583	84882	97.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.10	
	5	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	11926	1131	約10	5645	5657	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.2	
J5	35	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	12001	1137	約70	39495	39789	91.9	94	92.2	93.5	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.8	
J6	38	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10366	1169	約90	44090	44431	97.0	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.12	
J7	42	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	10366	1169	約100	48789	49108	97.2	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H27.9	
J8	9	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	10747	682	約10	6124	6138	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.4	
J9	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10747	682	約20	8171	8183	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.11	
K1北	12	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	10366	1169	約30	13734	14031	96.0	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H27.1	
K1南	10	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設) ※2	11926	1131	約20	11291	11314	97.5	100	97.7	99	タンクの分析は未実施							R3.7	
K2	28	1057	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設) ※2	12780	1032	約40	28575	28888	97.2	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.7	
K3	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13280	683	約10	8178	8195	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.4	
K4	35	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	12410	972	約50	33760	34024	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.8	
多核種除去設備	4	1100	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	9750	1103	約0	2288	4411	94.8	100	97.5	99	— ※4							H25.3	
高性能多核種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	12630	1199	約0	241	3598	11.0	100	98.4	99.6	—							H26.10	
増設多核種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	12630	1199	約0	1462	3598	96.5	100	98.4	99.6	—							H26.9	
D	10	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	濃縮廃液	12936	1002	約120	9022	10041	79.7	95	88.7	90	タンクの分析は未実施							H26.8	
H2	3	100	鋼製横置きタンク(溶接)	濃縮廃液	—	—	—	178	281	89.3	—	93	96.5	タンクの分析は未実施							H23.8	

赤字はアウトオブサービス済の基数

※実容量には、タンク底部から水位計0%の水量(DS分)を含まない。

下線部は今回の変更箇所

※1 濃縮塩水/Sr処理水等を貯留した実績あり(G3西及びJ1の一部)

※2 Sr処理水等を貯蔵した実績のあるタンクを再利用したものを含む 再利用した基数 G3西:30、G3北:6、H8南:8、J1:8、K1南:10、K2:26

※3 多核種除去設備処理済水(ALPS処理水等)の放射能濃度について、当社「処理水ポータルサイト」に掲載のデータを参照(3ヶ月毎にデータ更新)

処理水ポータルサイトのURLは以下のとおりです。4ページ中段にある「貯蔵タンクエリア毎の放射能濃度を詳しくみる」をクリックすると、分析結果が表示されます。

https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/

※4 多核種除去設備、高性能多核種除去設備、増設多核種除去設備のサンプルタンクは貯留用タンクではなく水の入れ替わりがあることから、分析対象外とする。

※5 プロセス主建屋へ移送実施。

汚染水等構内溜まり水の状況 (2022.1.20時点)

リスク観点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs-134: <1.0E1 Cs-137: 2.1E1 全β: 2.6E1 H-3: 1.0E2 (2015.11.2) 【1階】 Cs-134: 1.1E1 Cs-137: 4.0E1 全β: 4.1E1 H-3: 1.1E2 (2015.11.2)		
1-2	2号機R/B	2号機R/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs-134: 200~340 Cs-137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr-90: 40~20 ND(<100) H-3: ND (2015.1.16)		
2	5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約8,900 (2021.9時点)	Cs-134: 2.3E0 Cs-137: 7.0E1 (2021.11.10)	2.2E0 8.0E1 (2021.12.15)	5・6号建屋滞留水・RO処理水を貯留
3	5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約6,300 (2021.9時点)	Cs-134: 7.7 Cs-137: 4.3E1 (2016.10.3)		5・6号建屋滞留水を貯留
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs-137: 2.0E3~1.6E7 Sr-90: 5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)		
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃廃水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	タンクエリア(Cエリア)	約65×1 (2019.2.1時点)	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs-134: 1.7E4 Cs-137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)	蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1: 全5タンクの水量を 実測して算出	
9	5, 6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	5号機スクリーン近傍	約0 (2021.12.9)	Cs-134: ND Cs-137: 3.4E0 (2016.10.5)	水抜き済 今後充填予定	
		・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	Cs-134: ND Cs-137: 3.7E0 (2016.10.5)		
		・5号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 3.0E0 Cs-137: 1.9E1 (2016.10.3)		
		・6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 1.5E0 Cs-137: 1.1E1 (2016.10.3)		
10	1~4号機T/B屋根	・1号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs-134: 2.1E1 Cs-137: 6.2E2 (2021.9.21) 全β: 4.4E1 (2020.7.29)	2.8E1 6.4E2 (2021.11.24)	
		・2号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs-134: ND Cs-137: 4.7E1 (2021.9.21) 全β: 8.9E0 (2020.7.29)	ND 2.7E1 (2021.11.24)	
11	1号CSTタンク(溶接タンク)	・1号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約740 (2016.10.26)	Cs-134: 2.9E+4 Cs-137: 1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)	RO処理水を貯留	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2022.1.20時点)

リスク観点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
12	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,900 (2021.9.15)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 H-3: 1.9E5 1.8E5 Sr-90: ND ND (2021.10.5) (2021.11.2) 【2号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.6E+02 Cs-137: 1.7E+03 (2018.12.14) 全β: 1.5E+03 (2018.12.19)	2020.3.18より1~3号機炉注水源としての運用開始
13	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,970 (2021.9.15)	【3号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.9E+2 Cs-137: 3.5E+3 全β: 6.3E+3 H-3: 7.5E+5 (2020.7.16)	RO処理水を貯留 1~3号機炉注水源
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.3E6 (2018.9.12) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 7.9E3 (2021.12.7) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.1E6 (2018.9.12) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 8.5E3 (2021.12.8) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.2E6 (2018.9.11) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 8.9E3 (2021.12.10) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 2.8E4 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 7.8E6 (2018.9.11) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 4.5E1 (2019.9.5) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.5E2 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
22	1-4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト (2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約4~170 (2020.12)	Cs-134: ND~3.2E2 Cs-137: 9.6E1~7.6E3 全β: 9.6E1~8.0E3 H-3: 1.0E2~6.5E3 (2020.12)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1) 「2020年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側	約1,600 (2020.12)	Cs-134: ND Cs-137: 8.7E1 全β: 1.0E2 H-3: ND (2020.12.18)	
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約400 (2020.12)	Cs-134: ND Cs-137: 4.8E1 全β: 7.3E1 (2020.12.21)	
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約830 (2020.12)	Cs-134: 4.8E1 Cs-137: 4.0E2 全β: 4.4E2 H-3: ND (2017.10)	
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防炎用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1~4号機周辺	約1~830 (2018.12)	Cs-134: ND~2.3E1 Cs-137: 7.0E0~2.7E2 全β: 5.4E1~7.2E2 H-3: ND~1.7E3 (2018.11~2019.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(2) 「2018年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照
29	1~4号機サブドレンピット No.15,16(未復旧ピット)	・サブドレンピットNo.15,16	1~4号機周辺 「未復旧」	約20	【No.16】 Cs-134: 1.8E4 Cs-137: 5.6E5 全β: 6.3E5 H-3: 9.5E2 (2021.11.5)	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2022.1.20時点)

リスク観点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
30	その他1~4号機サブドレン(ディーブウェル含む)(未復旧ピット)	・1号機~4号機サブドレン	1~4号機周辺 「未復旧」	約15/ピット	【No.47.48】 Cs-134:ND~3.9E1 Cs-137:4.8E1~9.6E1 全β:7.9E1~2.8E2 H-3:ND (2014.11.10)	
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1~4号タービン建 屋海側	約4,200 (2018.12.17)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 1.7E2 7.6E1 Cs-137: 4.7E3 2.9E2 全β: 5.3E3 2.7E3 H-3: ND ND (2021.12.13) (2022.1.17)	
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2~4号機タービン 建屋海側	約3,600 (2018.12.14)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 3.4E1 2.5E1 Cs-137: 9.9E2 9.0E2 全β: 1.3E3 1.1E3 H-3: ND ND (2021.12.13) (2022.1.17)	
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3~4号機タービン 建屋海側	約1,600 (2018.12.17)	Cs-134: 1.2E1 1.7E1 Cs-137: 5.1E2 5.6E2 全β: 5.2E2 6.7E2 H-3: ND 1.7E2 (2021.11.10) (2021.12.8)	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4,500	Cs-134: 7.2E0 Cs-137: 2.3E1 I-131: ND Co-60: ND 全γ放射能: 3.1E1 全β放射能: - (2014.5.23)	
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1040 (2021.9.27)	Cs-134: ND ND Cs-137: ND ND Co-60: 1.2E2 1.0E2 (2021.11.12) (2021.12.22)	プラント保有水を貯留
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1620 (2021.9.27)	Cs-134: ND ND Cs-137: ND ND Co-60: ND ND (2021.11.11) (2021.12.8)	プラント保有水を貯留
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機ストームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5~6号機周辺	約1~1,900 (2015.10~2016.1)	Cs-134:ND~2.2E2 Cs-137:ND~9.9E2 (2015.10~2016.1)	
39	5, 6号機サブドレン	・5,6号機サブドレンピット	5~6号機周辺 ※「復旧対象」	約15/ピット	Cs-134: ND Cs-137: ND~3.5 全β: ND~4.8 H-3: ND~140 (採水期間:2017.10~2018.3) <各ピット混合水> Cs-134: ND Cs-137: 4.3E-1 全β: ND H-3: 4.0E0 (2020.1.28)	
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs-134:1.0E+1 Cs-137:1.4E+1 Co-60:<6.0E-01 全γ放射能:2.4E+1 (2012.1.18)	
41	SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2,800 (2015.3.25時点)	Cs-134:8.0E+4 Cs-137:1.6E+5 Co-60:6.5E+2 (2013.8.27)	プラント保有水等を貯留
42	集中ラド周リサブドレン	・集中ラド周リサブドレン	主プロセス建屋等 各建屋周辺	約15/ピット	Cs-134: ND ND Cs-137: ND~7.9E1 ND~5.7E1 (2021.11.10) (2022.1.18)	
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(建屋エリア)	約850	Cs-134: 2.1 Cs-137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)	震災後、坂下ダム補給水を貯留

汚染水等構内溜まり水の状況 (2022.1.20時点)

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
45	5/6号機建屋滞留水	5/6号機建屋滞留水	5~6号機	約9,300 (2021.12時点)	【5号機】 Cs-134: ND ND Cs-137: 7.7E-1 9.0E-1 全β: ND ND H-3: ND ND (2021.11.11) (2021.12.10) 【6号機】 Cs-134: ND ND Cs-137: 2.5E0 1.7E0 全β: ND ND H-3: ND ND (2021.11.12) (2021.12.17)	
46	排気筒ドレンサンプピット	1/2号排気筒ドレンサンプピット	1~4号機周辺	約0.3 [*] ※適宜溜まり水の移送を実施	Cs-134: 5.7E4 1.4E5 Cs-137: 1.8E6 4.3E6 全β: 2.1E6 4.0E6 (2021.10.29) (2021.12.23)	2019.10.12以降、水位低下傾向が確認された。 (2019.11.27)
		3/4号排気筒ドレンサンプピット	1~4号機周辺	約2	Cs-134: 9.5E1 Cs-137: 1.8E3 全β: 2.3E3 (2020.12.23)	
		5/6号排気筒ドレンサンプピット	5/6号機周辺	約7.6 (2020.3.12)	Cs-134: ND Cs-137: 1.3E1 全β: 1.2E1 (2021.2.18)	
		集中RW排気筒ドレンサンプピット	1~4号機周辺	約10	Cs-134: ND Cs-137: 2.2E2 全β: 2.7E2 (2020.5.20)	
47	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	約200	Cs-134: ND Cs-137: 5.3E+1 全β: 4.8E+1 (2017.11.10)	

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

東京電力ホールディングス株式会社
2022年2月4日

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 12}	管理方法		主要 核種	
							実施内容 ^{※9}	頻度		
Ⅲ ^{※13} 第1編 39条 第2編 87条の2	瓦礫類	・地震、津波、水素爆発により飛散した瓦礫 ・フォールアウトにより汚染した設備・資機材で廃棄する物（建屋、制御盤、廃車両等） ・設備の点検・工事により発生する交換品等（ポンプ、バルブ、配管、フランジタンク等） ・設備運転に伴い発生する消耗品等（空調フィルタ等） ・工事等のため構内に持ち込んだ消耗品（梱包材、型枠、セメント用空袋等） ・回収した土壌	屋外	・屋外集積（～0.1mSv/h）	226,900 m ³ [+200 m ³]	278,000 m ³ (299,000 m ³)	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・巡視を行い、容器の転倒、落下や養生シートに破れがないこと、その他異常が無いことを確認	—	Cs-137 Cs-134 等 ^{※7}	
				・シート養生（～1mSv/h）	43,000 m ³ [+600 m ³]	77,400 m ³ (77,400 m ³)		週1回		
				・覆土式一時保管施設、容器収納（1mSv/h～30mSv/h）	17,300 m ³ [0 m ³]	18,500 m ³ (18,500 m ³)		週1回		
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納	26,900 m ³ [+600 m ³]	39,600 m ³ (64,700 m ³)	・空間線量率を測定し表示 ・空気中の放射性物質濃度を測定	6ヶ月に1回 ^{※2}		
			瓦礫類の合計				313,900 m ³ [+1,400 m ³]	413,400 m ³ (459,500 m ³)		・槽内の溜まり水の有無を確認（覆土式一時保管施設）
	使用済保護衣等	・タイバック ・下着類 ・ゴム手袋 ・その他保護衣、保護具	屋外	・容器収納	26,600 m ³ [-2,300 m ³]	52,500 m ³ (58,700 m ³)	・煙、水蒸気、濁り水（黒・茶色）、空気の揺らぎが発生していないこと（屋外集積の伐採木）	週1回 ^{※3}		
			建屋	・袋詰め						
	伐採木	・枝葉根	屋外	・伐採木一時保管槽	37,300 m ³ [0 m ³]	41,600 m ³	・伐採木一時保管槽における温度監視	週1回 ^{※3}		
				・屋外集積	800 m ³ [微増 m ³]	6,000 m ³		・保管量を確認し、保管容量が確保されていることを確認		月1回
		・幹根	102,700 m ³ [0 m ³]	128,000 m ³						
		伐採木の合計				140,800 m ³ [微増 m ³]	175,600 m ³ (175,600 m ³)	—		
	Ⅲ 第1編 40条 第2編 87条の3	水処理二次廃棄物（水処理により放射性物質を濃縮した廃棄物）	凝集沈殿物	廃スラッジ [△] 貯蔵施設	・造粒固化体貯槽【除染装置】	438 m ³ [-2 m ³]	700 m ³	・免震重要棟にて液位を監視し、漏えいの有無を監視		常時
				使用済セシウム吸着塔一時保管施設	・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約13mSv/h）	3,924 本 [+26 本]	4,192 本	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示		—
・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約23mSv/h）					・巡視を行い、コンクリート製ボックスカルバート等に異常が無いことを確認	—				
・吸着塔【第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置、高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約1.2mSv/h）			380 本 [0 本]			584 本	・貯蔵量を確認し、貯蔵可能容量が確保されていることを確認	週1回		
・処理カラム【多核種除去設備】（最大約0.2mSv/h）					瓦礫類に含む	瓦礫類と同様				
・吸着塔【セシウム吸着装置、モバイル式処理装置、モバイル型Sr除去装置、第二モバイル型Sr除去装置、サブドレン他浄化装置、高性能多核種除去設備検証試験装置】（最大約250mSv/h）			976 本 [+1 本]				1,596 本	瓦礫類に含む	瓦礫類と同様	
・容器収納【モバイル型Sr除去装置】（最大約0.5mSv/h）					瓦礫類に含む	瓦礫類と同様				
・フィルタ			屋外	・容器収納【高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約0.5mSv/h）					瓦礫類に含む	瓦礫類と同様
RO装置のフィルタ類			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【サブドレン他浄化装置】			瓦礫類に含む	瓦礫類と同様		
			・樹脂	屋外	・容器収納【雨水処理設備等】（1mSv/h未満）					
・樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）			瓦礫類に含む	瓦礫類と同様				
・樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【雨水処理設備等】（最大2mSv/h）								

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 11, 12}	管理方法		主要核種	
							実施内容 ^{※9}	頻度		
III 第1編 38条 第2編 87条	放射性固体廃棄物等	・震災前に発生した放射性固体廃棄物	固体廃棄物貯蔵庫	・ドラム缶収納	ドラム缶 175,661本	ドラム缶 (約318,500 本相当)	・巡視による保管状況の確認及び保管量の確認	月1回	Co-60 等	
				・その他	ドラム缶 10,155本					
		・震災後に発生した放射性固体廃棄物(焼却灰等)	・ドラム缶収納	2,639本 [+52本]						
		・使用済制御棒等	サイトバンカ	・水中保管	12,125本 193 m ³ ^{※4}	—		・事故前の保管量の推定値により確認		3ヶ月に1回
								・プール水位の確認		月1回
		・イオン交換樹脂、造粒固化体	タンク等	・タンク等に貯蔵	3,543 m ³ ^{※5}	—		・貯蔵量の確認 ^{※8}		3ヶ月に1回
・貯蔵状況の確認 ^{※8}	タンクにより異なる									
・使用済制御棒等	使用済燃料プール	・水中貯蔵	11,422本 ^{※6}	—	・使用済燃料共用プールの巡視	月1回				
					・使用済燃料共用プールの貯蔵量の確認	3ヶ月に1回				
— ^{※10}	瓦礫等 ^{※13}	・回収した土壌	—	15,700 m ³ [-2,700 m ³]	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	Cs-134 Cs-137 等			
		・回収した土壌以外の瓦礫等	屋外	—				54,600 m ³ [-300 m ³]		
			建屋	—				1,000 m ³ [微増 m ³]		
	水処理二次廃棄物	・樹脂、ゼオライト、RO膜等	—	200 m ³ [微減 m ³]						
仮設集積の合計					—	71,600 m ³ [-3,000 m ³]		Cs-137 Cs-134 Sr-90等		

※1 瓦礫類、使用済保護衣等、伐採木、仮設集積物、震災後に発生した放射性固体廃棄物(焼却灰等)は2021年12月28日現在、水処理二次廃棄物は2022年1月6日現在の保管量及び保管容量である。尚、瓦礫類、使用済保護衣等及び伐採木の下段に()で記載している保管容量は、実施計画(2021年11月11日認可)に記載している保管容量である。

※2 屋外集積及びシート養生の瓦礫類、使用済保護衣等、並びに屋外集積の伐採木は、3ヶ月に1回。

※3 6月～9月は、1週間に3回。

※4 2021年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：1,167本、チャンネルボックス：9,818本、ヒューエルサポート：3本、中性子検出器：1,137本、その他(シュラウド切断片等)：193m³。

※5 2021年3月末時点の保管量。内訳は、イオン交換樹脂：2,395m³、造粒固化体：1,148m³。

※6 2021年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：281本、チャンネルボックス：10,539本、ポイズンカーテン：173本、ヒューエルサポート：54本、中性子検出器：375本。

※7 廃棄物の処理・処分に必要となる、廃棄物の性状把握のため、汚染水、瓦礫類、伐採木及び立木について、放射能濃度分析を実施しており、今後も継続する。分析した試料の中には、C-14(半減期：約5.7×10³年)、Ni-63(半減期：約1.0×10²年)、Se-79(半減期：約1.1×10⁶年)、Tc-99(半減期：約2.1×10⁵年)、I-129(半減期：約1.6×10⁷年)等が検出されているものがある。

※8 1～4号機廃棄物処理建屋等の水没や高線量の理由によりアクセスできないタンクについてはこの限りではない。

※9 アンダーラインの実施内容は、実施計画(2021年11月11日認可)に未記載。

※10 仮設集積しているのは、伐採木、土壌、水処理二次廃棄物等であり、QJ-54・1F-R5-002 瓦礫等管理要領に基づき、ロープや柵等の区画を行い、立ち入りを制限する標識を掲示する措置を講じている。

※11 []は、当該の報告とその前月との差を示している。

※12 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。

※13 瓦礫等の記載については、廃棄物管理の適正化の検討を踏まえて、今後見直す。

ガレキの保管量の現状^{※1, 2, 3}

保管形態	受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア 名称	保管容量 ^{※7}	保管量	前回比	保管容量合計 ^{※7}	保管量合計	2021年度末 想定保管量 ^{※4}
屋外集積 (~0.1mSv/h)	≦0.001	AA	36,400 m ³	20,000 m ³	+300 m ³	278,000 m ³	226,900 m ³	262,200 m ³
	≦0.005	A2	9,500 m ³	- m ³ ^{※5}	- m ³ ^{※5}			
		J	8,000 m ³	6,200 m ³	0 m ³			
	≦0.01	A1	4,300 m ³	- m ³ ^{※5}	- m ³ ^{※5}			
		B	5,300 m ³	5,300 m ³	0 m ³			
		C	31,000 m ³	31,000 m ³	0 m ³			
	≦0.025	C	35,000 m ³	34,000 m ³	-100 m ³			
	≦0.028	U	800 m ³	700 m ³	0 m ³			
	≦0.1	C	1,000 m ³	1,000 m ³	0 m ³			
		F2	7,500 m ³	6,400 m ³	0 m ³			
		N	10,000 m ³	9,600 m ³	0 m ³			
		O	51,400 m ³	44,000 m ³	0 m ³			
		P1	64,000 m ³	62,600 m ³	0 m ³			
		V	6,000 m ³	6,000 m ³	0 m ³			
d		1,200 m ³	0 m ³	微増 m ³				
e	6,700 m ³	0 m ³	0 m ³					
シート養生 (~1mSv/h)	≦0.3	D	4,500 m ³	2,600 m ³	0 m ³	77,400 m ³	43,000 m ³	73,700 m ³
	≦1	E1	16,000 m ³	14,800 m ³	0 m ³			
		P2	9,000 m ³	5,900 m ³	0 m ³			
		W1	23,000 m ³	9,600 m ³	微減 m ³			
		W2	6,300 m ³	0 m ³	0 m ³			
		X	12,200 m ³	6,200 m ³	微増 m ³			
		m	3,100 m ³	900 m ³	+600 m ³			
		n	3,300 m ³	2,900 m ³	0 m ³			
F1	700 m ³	600 m ³	0 m ³					
覆土式一時保管施設、容器収納 (1mSv/h~30mSv/h)	≦10	E2	1,800 m ³	600 m ³	0 m ³	18,500 m ³	17,300 m ³	33,000 m ³
	≦30	L	16,000 m ³	16,000 m ³	0 m ³			

仮設集積の管理状況^{※1, 2}

分類	場所	保管容量	保管量	前回比
仮設集積 ^{※6}	①	3,000 m ³	2,800 m ³	微減 m ³
	②	3,000 m ³	3,000 m ³	0 m ³
	③	2,000 m ³	1,800 m ³	0 m ³
	④	12,000 m ³	9,700 m ³	+500 m ³
	⑤	14,000 m ³	13,800 m ³	微増 m ³
	⑥	4,000 m ³	2,500 m ³	+500 m ³
	⑦	9,000 m ³	6,300 m ³	+500 m ³
	⑧	4,500 m ³	3,500 m ³	微減 m ³
	⑨	1,500 m ³	1,500 m ³	0 m ³
	⑩			
	⑪	2,400 m ³	1,200 m ³	0 m ³
	⑫	1,800 m ³	1,800 m ³	0 m ³
	⑬			
	⑭	2,200 m ³	2,200 m ³	0 m ³
	⑮	2,000 m ³	2,000 m ³	0 m ³
	⑯	5,600 m ³	2,800 m ³	0 m ³
	⑰			
	⑱	1,100 m ³	900 m ³	0 m ³

- ※1 瓦礫類、仮設集積物は2021年12月28日現在の保管量及び保管容量である。保管容量は運用上の上限を示している。
- ※2 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。
- ※3 各受入目安線量率において、固体廃棄物貯蔵庫の保管量は除いて記載。
- ※4 瓦礫類の想定保管量は、実施計画（2021年11月11日認可）の予測値を示している。
- ※5 エリアA1及びA2は低線量エリアとした（2020年1月6日認可）が、移行期間のため「-」と記載。
- ※6 保管容量が1,000m³以上の仮設集積場所について記載。
- ※7 瓦礫等の記載については、廃棄物管理の適正化の検討を踏まえて、今後見直す。

【津波対策】 陸側遮水壁ブライン配管用電動弁設置 現地動作試験について

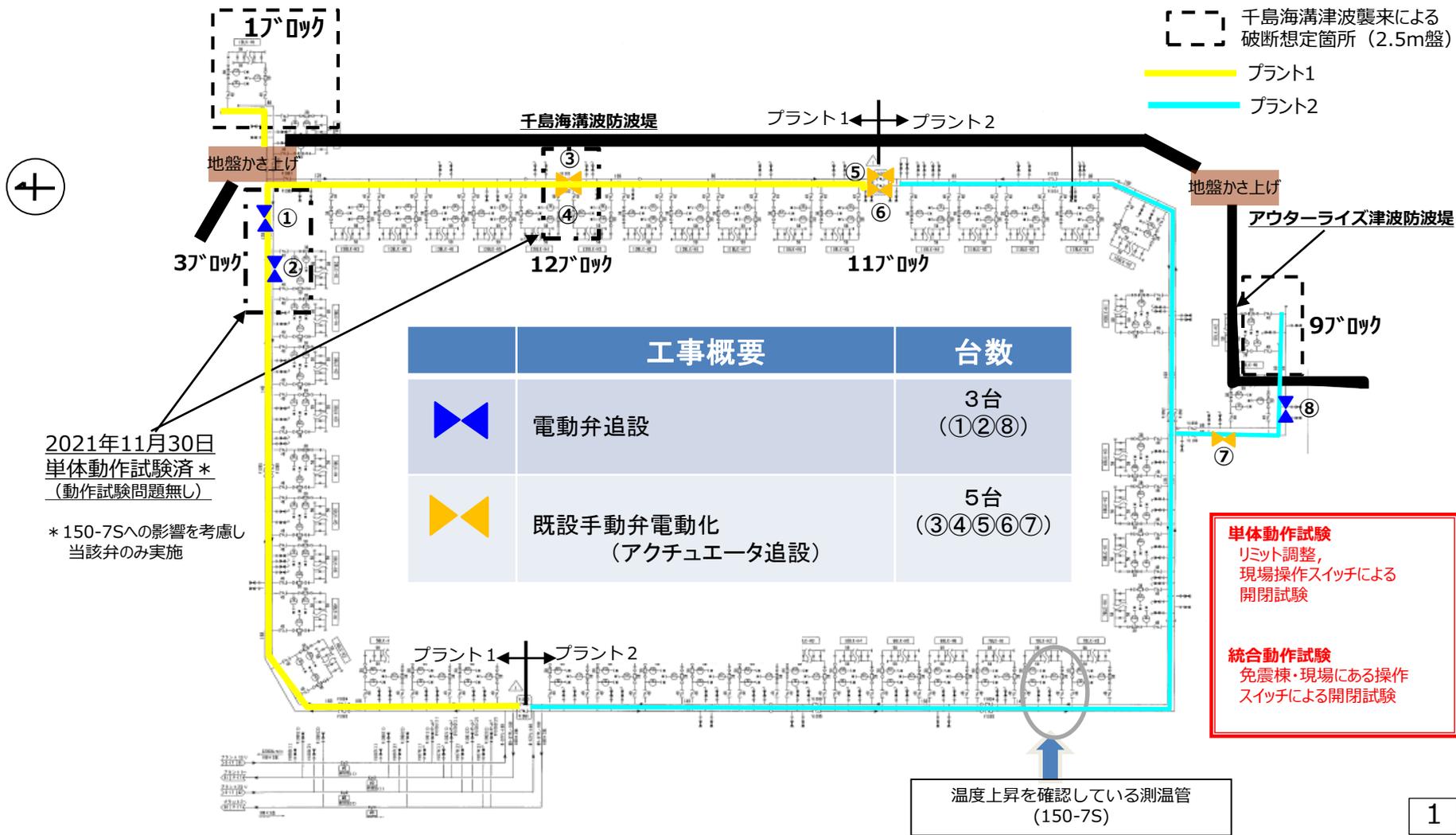
TEPCO

2022年2月4日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 千島海溝電動弁設置の現地動作試験について

千島海溝津波襲来に備え以下の通り電動弁設置を実施しているが、千島海溝津波以外の津波襲来時にも機能すべき電動弁の試験が一部未実施の状態であることから、津波襲来に伴い配管破断によるラインの大量漏えい・凍結運転継続困難とならないよう、未実施の単体動作試験（⑤⑥⑦⑧）・統合動作試験（①～⑧）を実施し設備機能に万全を期すこととする。

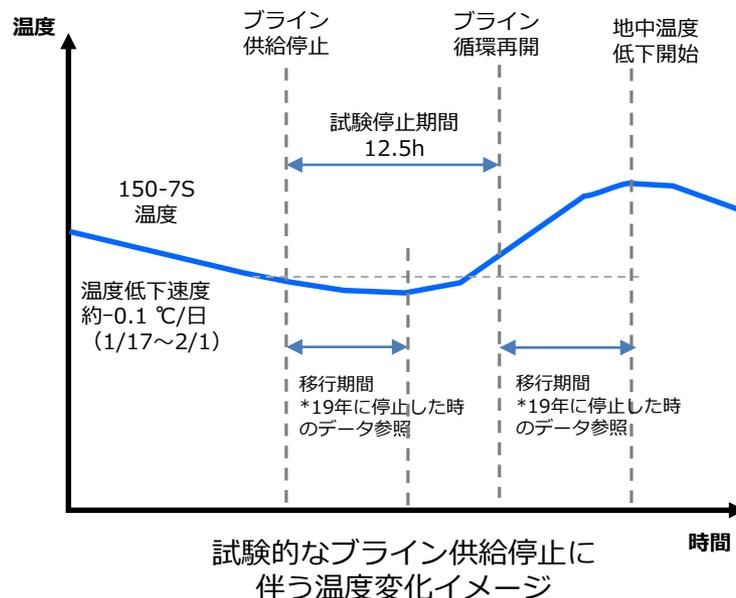
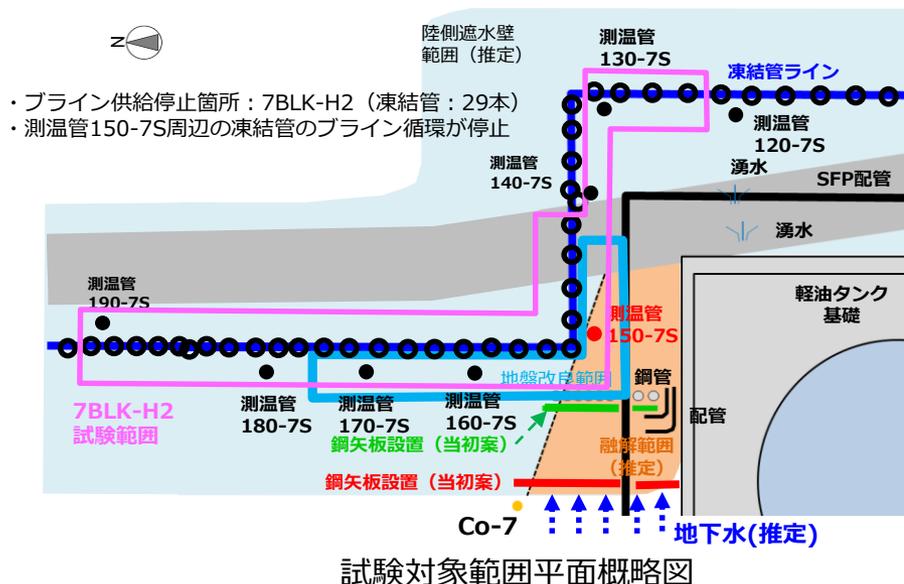


2021年11月30日
単体動作試験済*
(動作試験問題無し)

* 150-7Sへの影響を考慮し
当該弁のみ実施

2. ブライン供給停止が測温管150-7Sの温度変化に及ぼす影響確認試験

- 津波対策として設置した電動弁動作試験に伴うブライン供給停止が**測温管150-7Sの温度変化に及ぼす影響を事前に確認し、動作試験の実施可否を判断**するため、試験的に7BLK-H2のブライン供給を短時間停止し、温度変化の確認を行う。
- 温度上昇調査のために計画している「試験的な止水（鋼矢板設置）」の評価に影響を与えないため、電動弁動作試験の実施時期は、鋼矢板打設前に実施する。



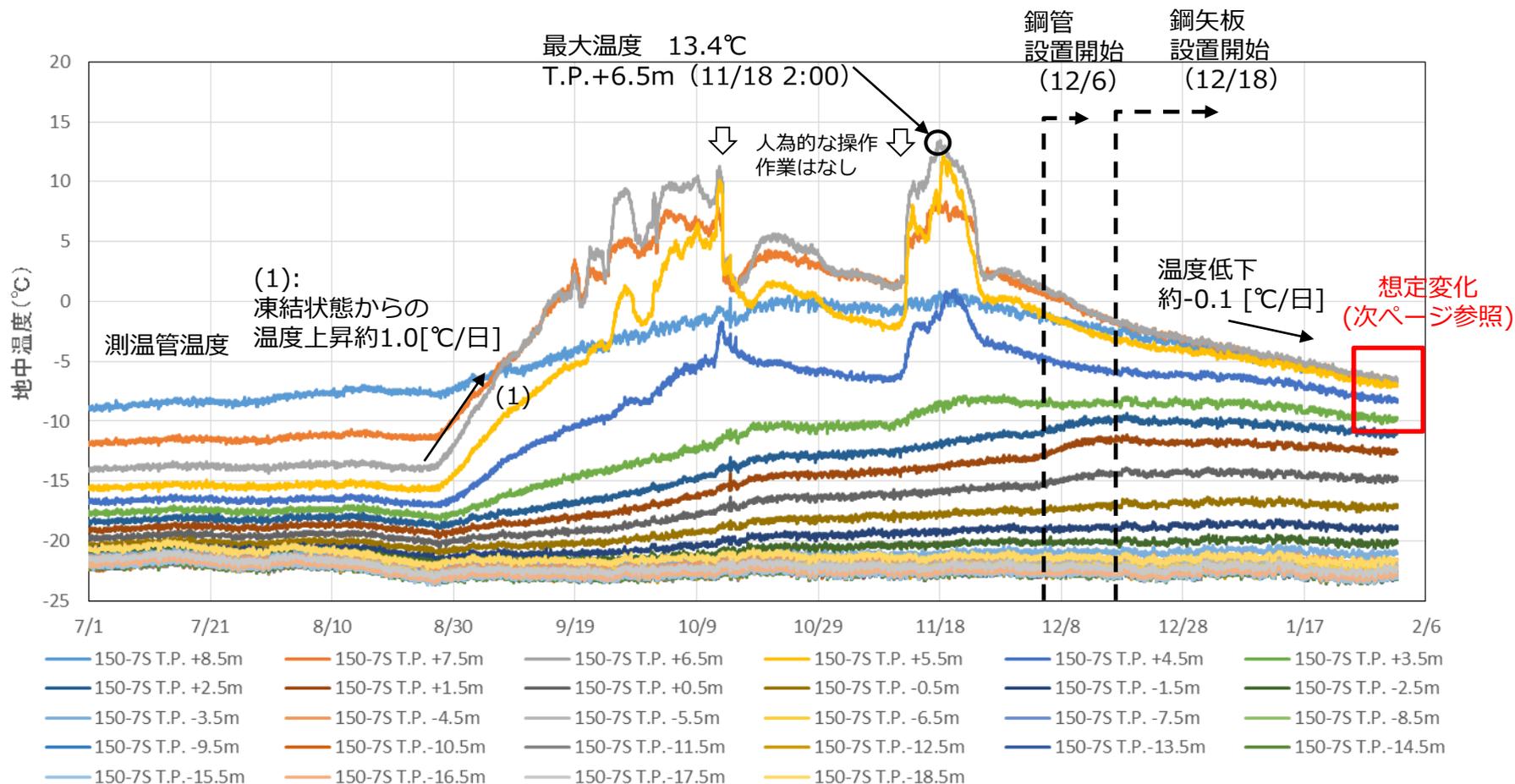
	1/31	2/7	2/14	2/21	2/28
試験的な止水	鋼矢板打設準備			鋼矢板打設	
ボーリング調査	ボーリング	水みち調査			
ブライン供給停止		影響確認試験	電動弁動作試験		
		温度回復期間	温度回復期間		

← 鋼矢板設置に影響を与えない期間 →

※関連作業や地中温度の挙動により見直すことがある

3. 測温管150-7Sの温度評価

- T.P.+8.5m～T.P.+4.5mまでは鋼管設置前から低下傾向を示し、設置後もその傾向が継続しており、2月1日時点で全層で-6℃以下に低下している。
- T.P.+3.5m～T.P.-0.5mまでは鋼矢板設置の12月18日頃から、横ばいとなり、温度の低下傾向が確認されている。
- 8月末時点の温度までは回復しておらず、凍結管から供給する冷熱が流動する地下水により十分に供給しきれていない状況は継続している



測温管150-7S経時変化 (2/1 7:00時点)

4. 影響確認試験概要と電動弁動作試験実施判断について

■試験実施の体制

データ監視：1人、現場操作者：2人（免震棟待機、現場出向時には事務本館からも応援者を追加配置）

■試験時間（予定）

7：00～19：30（温度監視は低下が見られるまで）

■試験中止判断

①試験開始後に測定された温度が3時間連続で1℃/日（赤破線）の温度上昇勾配を超過する場合

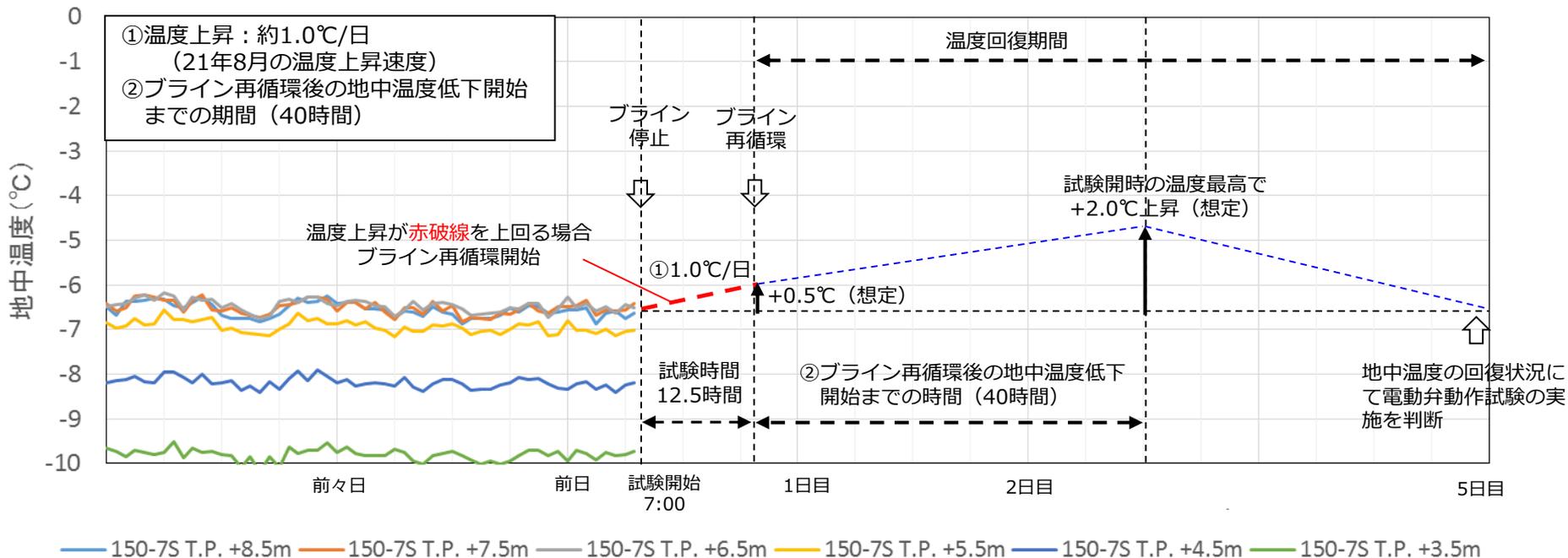
②1℃/日（赤破線）の温度上昇勾配を大きく超えて温度上昇が確認された場合

■試験期間中データ確認頻度

1時間毎

■電動弁動作試験の実施判断

影響確認試験5日後の時点で、測温管150-7Sの温度が概ね試験実施前の地中温度まで回復出来た場合には、電動弁の動作試験を実施するものとする



5. 電動弁動作試験関連スケジュール

	2021		2022	
	11月	12月	1月	2月
単体動作試験 <u>【対象電動弁：①②③④】</u>	30日（動作試験問題無し） ■			
陸側遮水壁設備 プラント停止	プラント1停止 ■		7BLK-H2「閉」のみ(P2参照) ■	全停(アイル開始9時, 復旧完了21時30分) ■
測温管(150-7S) 温度評価試験			8日 ■	
測温管温度回復期間 (想定5日)				9日 14日 16日 20日 □ □ □ □
単体動作試験 <u>【対象電動弁：⑤⑥⑦⑧】</u>				15日(13時~17時) ■
統合動作試験 <u>【対象電動弁：①~⑧】</u>				15日(17時~19時30分) ■
鋼矢板設置				22日 28日 ■

※関連作業や地中温度の挙動により見直すことがある

参考 測温管150-7Sの温度経時変化

- ブライン停止時上昇率①1.0℃/日、(2021/8月時の挙動より、温度変動も含め温度上昇は1.0℃/日と設定)
- ブライン停止期間:12.5時間 / 温度低下までの時間②:約40時間(2019年実績参照) の合計52.5時間にて評価を実施
- ブライン停止により地中温度は、-6.0℃~-4.5℃の範囲内と想定 (2/2最高-6.5℃)
- 確認試験による温度上昇を回復させるには、約5日~20日を想定 (至近の温度低下速度:-0.1℃/日より算定)

